

大学教育再生加速プログラム(Acceleration Program for University Education Rebuilding : AP)

平成26年度予算案 10億円【新規】

背景

- ・想定外の事態に遭遇した時に、そこに存在する問題を発見し、解決するための道筋を見定める能力をもった学生が社会及び企業から求められている
- ・学生の主体的な学びのための学修時間の不足

課題発見・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、大学は教育内容を充実し、学生が徹底して学ぶことのできる環境を整備する必要

国として進める改革の方向性

「これからの大学教育等の在り方について」(教育再生実行会議 第三次提言 平成25年5月28日)

- ・教育方法の質的転換(学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法(アクティブ・ラーニング)、双方向の授業展開など)
- ・全学的教学マネジメントの改善(学生の学修時間の確保・増加、学修成果の可視化、教育課程の体系化、組織的教育の確立など) → 国はこうした取組を行う大学を重点的に支援

「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」(教育再生実行会議 第四次提言 平成25年10月31日)

- ・多面的・総合的に評価・判定する大学入学者選抜への転換 → 国は、メリハリある財政支援により大学を積極的に支援

支援部分【2階】

個別学部・学科の改革プロジェクトを申請

改革の方向性とプロジェクトの位置付け、重要性を明示した上で

大学全体としてこれからの改革の方向性を提示

大学自らで改革【1階】

教育改革の状況

テーマ① アクティブ・ラーニング

学生の能動的な活動を取り入れた授業内容・方法の改善

(標準型) 20,000千円 × 8件

(複合型) 28,000千円 × 16件

テーマ② 学修成果・指標モデル

- ・学生の学修成果を把握しそのデータに基づく授業改善
- ・学生自身も自らの学修成果を把握した上で次の学修をデザイン

(標準型) 20,000千円 × 8件

テーマ③ 入試改革・高大接続

- ・志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入学者選抜方法の開発・実施
- ・アドバンスドプレースメントの実施

(入試改革) 20,000千円 × 8件

(高大接続) 18,000千円 × 4件

- 大学等(大学、短大、高専)は、各テーマに合致したプロジェクトを申請(1大学1申請)
- 文科省は、各テーマ毎、各テーマ共通の評価指標を事前に設定(それ以外に各大学個別の評価指標の設定は必須)
- 客観的な指標を用いて効果を明確にし、成果が見られなければ補助金の減額等を実施
- 支援期間は5年間(ただし、4年目・5年目は補助金を1/3・2/3ずつ逡減し、補助期間終了後のソフトランディングを促す)

これまでの教育改革の取組状況について、事前に設定した基準をクリアした大学等のみ審査対象

- ・全学での単位の上限設定(CAP制) ・シラバスの充実(内容まで評価) ・全教職員へのFD・SD
- ・ティーチング・アシスタントの充実 ・全学でのGPAの充実(利活用まで評価) 等